

**製品名:** グルココルチコイド受容体ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号:** AMRe21503

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:1000-1:4000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:85kD;Observed MW:94kD

**抗原情報**

遺伝子名	Nr3c1 GCCR;GCR;GCR_HUMAN;GCRST;glucocorticoid nuclear receptor variant 1;Glucocorticoid
別名	receptor;GR;GRL;Grl1;nr3c1;Nuclear receptor subfamily 3 group C member 1;nuclear receptor subfamily 3, group C, member 1;glucocorticoid receptor;
遺伝子 ID	2908.0
SwissProt ID	P04150
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

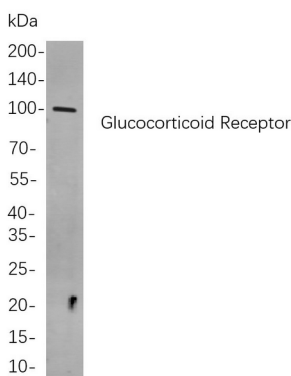
## 背景

細胞局在: 核。この遺伝子はグルココルチコイド受容体をコードしており、グルココルチコイド応答遺伝子のプロモーター領域にあるグルココルチコイド応答配列に結合して転写を活性化する転写因子として、また他の転写因子の調節因子として機能します。この受容体は通常は細胞質に存在しますが、リガンド結合により核内へ移行します。標的組織における炎症反応、細胞増殖、分化に関与しています。この遺伝子の変異は、全般的なグルココルチコイド耐性と関連しています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、同一または異なるアイソフォームをコードする転写産物バリエーションが生成されます。代替のインフレーム翻訳開始部位を用いることで生じる追加のアイソフォームも報告されており、機能的であることが示されているため、多様な細胞質から核への輸送パターンと明確な転写活性を示します (PMID:15866175)。 [RefSeq 提供、2011年2月]

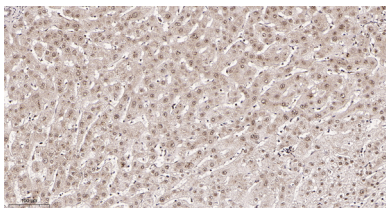
## 研究分野

-

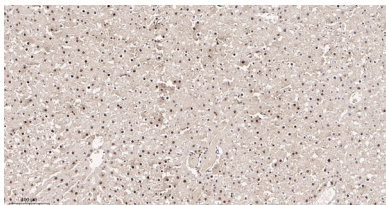
## 画像データ



U-251 MG 細胞ライセートのウェスタンブロット解析 (グルココルチコイド受容体ウサギ mAb を使用)。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。



パラフィン包埋ヒト肝臓組織の免疫組織化学分析。1、グルココルチコイド受容体ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用 (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ラット肝臓組織の免疫組織化学分析。1、グルココルチコイド受容体ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用 (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。